

## 4. 情報とメディア ～情報リテラシー～

概要	ショッピングやさまざまな情報の入手・申し込みなどもインターネット(以下「ネット」という)経由で行われることが多くなり、ネット環境は生活に不可欠なものとなっている。生徒もメールやSNSなどネットを利用して連絡を取り合うことが多くなっている。こうした生活環境の中でネットトラブルも多様化・複雑化し、被害も増加している。このような状況を踏まえ、今後さらに情報化の進展が見込まれる中、情報リテラシーやネチケット(ネットを利用するうえでのマナー・エチケット)を身に付けておくことが不可欠である。		
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネット取引の基礎知識と情報を読み解く力を身に付けさせる。</li> <li>・ 知らぬ間に加害者にならないよう、ネチケットを身に付けさせる。</li> <li>・ ネットにアクセスしたことで思わぬ被害にあわないよう、その危険性を理解させるとともに、ネットを安全に利用するための注意点を理解させる。</li> </ul>		
指導計画	<p>[導入] ネットをどのようなことに利用しているか事例を出し合う。</p> <p>[展開] 【ネットショッピングと電子マネー】【著作権・肖像権】【SNS】事例を見て問題点や注意点などを考え、ポイントとなる言葉や制度などを理解する。</p> <p>[まとめ] ネットを利用するうえでの注意点やネット情報をうのみにせずには検証する必要性、ネットを利用することで被害者にも加害者にもなる可能性があることを理解する。さらには消費者市民として、自分だけではなく周囲の人の被害の未然防止・拡大防止のための行動をとることが重要であることを認識する。</p>		
	時間	学習内容・活動	指導上の留意点
導入	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネットをどのようなことに利用しているか、おのこの利用状況を聞く。</li> <li>・ トラブルにあった生徒がいれば事例を聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画やゲーム、SNSなどが出ても批判しない。</li> <li>・ ほかの生徒にも同様の事例がないか聞き、生徒の被害状況を知る。</li> </ul>
各ワークはいずれかを選択・組み合わせて使うことができます。			
展開	30分	<p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">ネットショッピングと電子マネー</p> <p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">ワーク⑧ 教材⑧(教材⑤)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【ワーク⑧-1】教材⑧事例1、2を見て各事例の問題点、注意点を考える。</li> <li>・ 【ワーク⑧-2】教材⑧事例3、教材⑤を見て電子マネーを利用するうえでのメリット・デメリットや注意点を出し合う。</li> <li>・ 【ワーク⑧-3】周囲の人が教材⑧事例1～3のようなトラブルにあわないために自分ができることを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消費者側にも問題点があることを気づかせる。同様の経験がある生徒がいれば、事例を出させる。</li> <li>・ P25の④を見て、RMTという問題もあることを知識として理解させる。</li> <li>・ 自分だけでなく周囲の人のトラブルの未然防止・拡大防止のために行動することが、消費者市民としての行動であることを認識させる。</li> </ul>
	30分	<p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">著作権・肖像権</p> <p style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px;">ワーク⑨ 教材⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【ワーク⑨-1】事例を読み、問題となることについて意見を出し合う。</li> <li>・ 【ワーク⑨-2】事例を読み、問題となることについて意見を出し合う。</li> <li>・ 【ワーク⑨-3】教材⑨を見て、著作権、肖像権それぞれについて何のために権利が守られているのかを理解する。</li> <li>・ 【ワーク⑨-4】著作権・肖像権保護における消費者市民としての行動を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「してもよいかどうか」の境界線や、著作権は何を守るための権利なのかについて自由に意見を出させる。</li> <li>・ 個人が特定できる写真を無断でSNS上に公開することについて、何が問題なのか自由に意見を出させる。</li> <li>・ 著作権や肖像権について正しく理解させ、その保護の重要性に気づかせる。</li> <li>・ 著作者の利益保護、文化的な発展などのための行動について自由に意見を出させる。他者や社会への影響を考えて行動することが、消費者市民としての実践につながることを認識させる。</li> </ul>

30分	SNS ワーク⑩ 教材⑩		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段SNSをどのように利用しているか事例を出す。</li> <li>・ 【ワーク⑩-1】教材⑩の事例を読み、同様の事例を見聞きしたことがあれば話す。事例について感じたことや事例が自分や周囲の人、将来などにどのような影響があるか書き出す。</li> <li>・ 【ワーク⑩-2】自分や周囲の人の将来に影響を及ぼさないために自分にできることは何かを考える。</li> <li>・ 【ワーク⑩-3】SNSのやりとりを見てトラブルの原因を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒のSNS利用状況を把握する。</li> <li>・ 教材の事例とは多少違ってSNSでのトラブルを見聞きした生徒がいれば事例を出させ、感じたことを書き出させる。その事例が自分だけでなく周囲の人や将来などにどのような影響があるかも考えさせ、進学や就職、結婚など将来に影響を及ぼす可能性を指摘する。</li> <li>・ 各事例のようなトラブルにあわないための注意点を考えさせる。</li> <li>・ 対面で話をするのと文字だけのやりとりとの違いを認識させ、文字だけでは気持ちが伝わりにくいことを理解させる。</li> </ul>	
まとめ	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネット情報の内容の真偽を確かめる大切さを確認する。</li> <li>・ ネットの利用において、被害者にも加害者にもなる可能性があることを認識するとともに、セキュリティとネチケットを守ることでトラブルのリスクを下げることを理解する。</li> <li>・ 被害にあった場合は、居住地の消費生活センターや警察などに相談すること、同様の被害が発生しないよう周囲の人に注意を促すことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ネット上に投稿されたものを完全に削除することはできないので、将来に影響を及ぼす可能性があることや、個人にマスメディアのような役割をもたせるSNSを利用することで、気づかないうちに人を傷つける可能性があることを認識させる。また、ネットを利用する際には、ネチケットを守ることでトラブルになりにくくなることも認識させる。</li> </ul>

### 😊 こんな活用もできます

- ・ ネットを利用するうえで、ショッピングや情報漏えい、ハードウェアの脆弱性<sup>ぜいじやく</sup>、コミュニケーションなどについての危険を回避する方法を調べ、発表する……情報
- ・ 背が高い人に「モデルみたいだね」と言うのと「ひょろっとしてるね」と言うのでは、言われた人の印象が異なる。普段使っている言葉を相手を傷つけない言葉に置き換え、受け止められ方の違いを考える……国語
- ・ マルチ商法や内職商法がSNSを介して広がったり、出会い系サイトからSNSに移行したりするなど、SNSが悪用される場面が増えている。SNSにどのような規制が必要かを考える……公民・家庭

### プラス α RMT(リアルマネートレード)

オンラインゲーム内で使う仮想通貨やアイテムを現実の金銭で売買すること。多くのゲームサイトでは禁止しているが、RMTを仲介する業者が存在し、取引が行われている。個人情報をはっきりさせないままの個人間取引だと相手を持定できず、トラブルが発生した場合、解決は困難である。個人間取引の場合、相手方が事業者でないため、商取引ではないことから、消費生活センターでは相談することができない。

RMTを禁止しているゲームサイトでRMTが見つかったら、それまで積み上げたゲーム内での経験値やアイテムなどがすべてなくなったり、アカウント停止など厳しい措置が取られることもある。また、「お金を払ったのにアイテムが届かない」などのトラブルも多発している。生徒には、事前に規約を読んで、ルールを守ることの重要性やRMTの危険性について伝えることが必要である。